

令和 6 年度大学・高専機能強化支援事業
(支援 1 : 学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援)
事業概要

令和6年2月申請時点

1. 基本情報

大学名	同志社女子大学		設置区分	私立
学校種	大学		都道府県	京都
大学全体の総収容定員	6,040 名	※令和5年5月1日時点		
学部学科 組織構成	学芸学部（音楽学科、メディア創造学科、国際教養学科）、現代社会学部（社会システム学科、現代こども学科）、薬学部（医療薬学科）、看護学部（看護学科）、表象文化学部（英語英文学科、日本語日本文学科）、生活科学部（人間生活学科、食物栄養科学科）			
事業計画名	同志社女子大学 生活環境科学部（仮称）人間生活科学科（仮称）、食環境科学科（仮称）設置計画			

2. 事業概要

従来のくらしにかかわる幅広い分野の学びから、今日の課題である脱炭素社会の実現やみどりの食料システム戦略に基づく食料安全保障への対応等、生活者の視点から誰一人取り残さない 真の豊かさ と 持続可能な社会の実現をめざして生活環境科学部を設置 する。人間生活科学科では、生活に関する諸問題をサイバー空間とフィジカル空間の両側面から 生活者の視点で工学的解決ができる人間中心のデザイン力をもった人材の育成 をめざし、生活科学と工学を基盤としつつ、その境界および複合領域における知識・理論・技法を学際的に学ぶ教育課程を編成する。食環境科学科では、 生活科学と農学の双方の視点から「食」の生産から消費までを教育・研究の対象 とし、食に関する技術と文化の持続的発展に貢献し、人々の健康的な生活を守ることのできる人材の育成をめざし、管理栄養士養成課程を有する健康栄養学専攻と、フードシステムを一元的に学ぶフード・イノベーション専攻の2専攻を設置する計画である。
--

3. 本事業で新たに設置等を行う組織

改組予定年度	令和 9 年度					
認可申請・届出の別	認可申請					
改組内容	学部の新設					
設置等組織名	生活環境科学部人間生活科学科（仮称）					
設置等組織の学位分野	家政関係	工学関係	-	-	-	-
当該学部等の所在地	京都府京都市上京区玄武町					
入学定員	新設予定					
収容定員	新設予定					
入学定員の増加数	100 名					
他学部等の入学定員の減少数	100 名					

改組予定年度	令和 9 年度					
認可申請・届出の別	認可申請					
改組内容	学部の新設					
設置等組織名	生活環境科学部食環境科学科（仮称）					
設置等組織の学位分野	家政関係	農学関係	-	-	-	-
当該学部等の所在地	京都府京都市上京区玄武町					
入学定員	新設予定					
収容定員	新設予定					
入学定員の増加数	160 名					
他学部等の入学定員の減少数	160 名					



事業計画名 同志社女子大学 生活環境科学部(仮称) 人間生活科学科(仮称)、食環境科学科(仮称)設置計画					
基本情報					
改組予定年度	令和9年度	設置等組織名	生活環境科学部人間生活科学科(仮称)、食環境科学科(仮称)	入学定員増数(合計数)	260名
所在地	京都府京都市	改組内容	学部の新設	入学定員減数(合計数)	260名

＜社会や地域のニーズ・課題＞

- ◆ 脱炭素社会の実現に向け、家庭のエネルギー消費量の増大等の課題に対し、マクロ(地球規模の環境問題)とミクロ(個人の生活の質保証)の両視点で再検討したうえで、モノ・空間・制度をデザインできる人材が求められている。
- ◆ みどりの食料システム戦略に基づく「食料安全保障」を実現する持続可能な食料システムの構築に向け、食料の生産から消費までの各過程に携わる人々の相互連携が必須であり、全過程を俯瞰する視野と想像的構想力を兼ね備えた人材が求められている。

＜設置学部等の概要・コンセプト・特徴など＞

生活者の視点から誰一人取り残さない真の豊かさで持続可能な社会の実現をめざし、生活環境をめぐる諸課題を学際的、総合的に究明する。

（人間生活科学科）生活科学と工学を基盤としつつ、サイバー空間とフィジカル空間の境界および複合領域における知識・理論・技法を学際的に学ぶことで、**生活者の視点でハード(モノ)・ソフト(空間)・ルール(制度)をデザインする力**を養い、くらしや地域の諸問題を解決する。

（食環境科学科）「食」の生産から消費までを一元的に扱う学科とし、人々のウェルビーイングに繋がる栄養管理力を養う**健康栄養学専攻**と、フードシステム（環境・生産、加工、流通、消費）を一元的に学ぶ**フード・イノベーション専攻**を設置。

＜教育内容・育成する人材像＞

（人間生活科学科）生活に関する諸問題をサイバー空間とフィジカル空間の両側面から**生活者の視点で工学的解決ができる人間中心のデザイン力をもった人材**の育成。

- 衣環境、住環境、地域環境へと広がる生活空間全体をフィールドとした基礎科目を1年次に配置し、人間の生理・心理・工学的特性や感性に基づくデザイン力を養う応用科目を設置。
- 実務経験豊富な教員による実践的な科目として、「カーボンニュートラルと生活技術」「環境設備学」「製品設計とユーザビリティ」「地域資源マネジメント論」等を配置。

（食環境科学科）生活科学と農学の双方の視点から「食」の生産から消費までを**教育・研究の対象**に、食に関する技術と文化の持続的発展に貢献し、人々の健康的な生活の維持・発展に貢献できる人材の育成。

- 健康栄養学専攻では、食料生産から視野に入れ、健康寿命の延伸と健康格差の縮小に繋がる栄養管理力を養うことを目的に、知識複合的な演習・実験実習科目を展開。
- フード・イノベーション専攻では、「食品機能学」「作物育種学」等のバイオテクノロジーや、食品科学等に関する科目とフードシステムの理解に必須の経営学関連科目による文理融合型教育課程を編成。
- 共通の学びとして、AI・データサイエンスや食文化、アントレプレナーシップ教育に関する科目を設置。

＜連携を通じた教育体制の整備＞

- 知識や技術を社会実装する戦略の基盤として、**実務経験豊富な教員による教育体制**を整備。
- 企業、行政、大学との共創を促進させるためのPBL科目の導入や、**グリーンイノベーション先進国であるフィンランドの企業・大学との連携の推進。（人間生活科学科）**
- 行政と協働した**食育の推進や、食品関連企業や自治体、行政と連携したPBL科目の導入**、農林水産業体験インターンシップの実施。国際的な視野を養うための**韓国やベトナムの大学や研究機関との連携プログラムの推進。（食環境科学科）**

＜多様な入学者の確保＞

- 法人内の社内校や本学と関係が深い教育連携校、地域の高等学校との連携を推進し、出張講義や体験型授業の実施や、授業のオンライン配信等、多様な学習機会の提供を行うとともに、女子の理系分野への進学意識の向上をめざす。
- 準学士や社会人を対象とした入学試験の導入や、外国人留学生への奨学金や交流イベント、リモート・オープンキャンパスや、TAによる支援制度の導入を検討し、社会人および留学生の受け入れを促進する。

